



株式会社ハイテム 代表取締役社長 安田 勝彦

生タマゴ、タマゴかけご飯をアジアに発信 !!

アムステルダム空港出発ロビーの一等地に寿司レストランがあります。

当社がスタートした30年前には考えられなかったことです。

当時は、技術、ビジネス、食べ物、ファッションほとんど全てとっていいほど欧米が先進地で、これにいかについでいくかが時代の流れでした。養鶏設備も同様でした。

時代は大きく変わりつつあります。日本が世界の経済大国に躍り出る時代が到来し、この時代もGDPでは中国が圧倒する時代に変化しつつあります。中国の経済規模は2030年には日本の3倍になり、上海など沿岸先進経済地域の生活水準は10年後には現在の東京の水準に近づくといわれています。この大きな時代の流れを日本の地盤沈下で論ずることは簡単ですが、それではあまりに智恵がない話です。天津に自社工場を持つことになって中国を身近に見ることが多くなる中、この点に関し感ずることがあります。それは中国経済の中に占める、香港、シンガポール、台湾等の影響の大きさです。香港、シンガポールは人口数百万の地域、国です。中国人口の1%に満たない地域、国の意欲ある人達が、中国に大きな経済的インパクトを与えているのです。日本の将来は、香港、シンガポールの中国に対する意欲に学び、中国、そしてアジア各国にいかについに連繋の輪、ビジネスの展開をしていくかにかかっているのではないのでしょうか。

日本にある技術のスケール、文化の奥深さは世界に冠たるものがあります。生タマゴの食文化もその典型だと思います。あたりまえのように思っている生タマゴも、安心して食べられる現在の段階に至るまでには、サルモネラ問題等長い道程がありました。寿司が世界的に受け入れられるようになった背景は、新鮮なうまさだと思います。生タマゴも、タマゴかけご飯など、そのうまさは中国、アジアに広まっていける可能性は十分あるような気がします。

中国には年収1千万円以上の人達が1億人いると云われ、日本の米はこの人達が購買層だといわれています。栄養バランスがとれヘルシーなタマゴかけご飯、中国の場合はタマゴかけ粥が、この層から広がる可能性は大いにあると思います。生タマゴ需要が中国で生まれれば、その農場の設備、管理、運用技術に、日本のレイヤー生産者に活躍の場が広がる可能性があります。

南米で経済発展を遂げるブラジルのレイヤー産業は日系人がリードしています。きめ細かさが要求されるレイヤー農場に日系人が力を発揮しているのだと思います。中国のタマゴビジネスに日本の生産者が係っていくことが絵空事ではない時代が近づいているようにも思います。